

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社  
MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ事務局 御中  
公益財団法人日本手芸普及協会 御中

アフガニスタン・イスラム共和国  
2018 年度子どもたちへの手編みセーター等  
配布事業  
完了報告書



2019 年 2 月 28 日

---

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン  
〒164-0012 東京都中野区本町 1-32-2  
ハーモニータワー3F  
Tel. 03-5334-5350 Fax. 03-5334-5359  
URL: [www.worldvision.jp](http://www.worldvision.jp)

御礼

貴社・貴会によりご支援をいただきました、アフガニスタン「子どもたちへの手編みセーター等配布事業」が完了しましたので、ここに感謝とともにご報告致します。

今年もアフガニスタンの路上などで生活している子どもたちへ全国のご支援者の皆さまからのセーターを届けることができました。皆さまの想いがつまつたプレゼントを手にしたとき、子どもたちは興奮と喜びに満ちて、その様子は写真ではとらえきれないほどでした。

皆さまのご支援は、厳しい寒さと経済状況を生き抜くアフガニスタンの子どもたちに、あたたかさ、希望、そして生きる力をもたらしています。貴社・貴会のご関係者の皆さまと、子どもたちの喜びと希望を共に分かち合っていただければ幸いでございます。

このご支援に心から感謝し、これからも、世界で貧困や困難の中にある子ども達や人々への温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン

## 1. 支援事業概要

支援事業名	子どもたちへの手編みセーター等配布事業
支援事業地	アフガニスタン・イスラム共和国 ➢ ヘラート州ヘラート市 ワールド・ビジョン・アフガニスタン ストリート・チルドレン・センター 就学前教育センター8カ所 ➢ バギス州カラエナウ市 ワールド・ビジョン・アフガニスタン 就学前教育センター6カ所
支援事業期間	2018年9月29日～2018年11月29日(約2カ月間)
直接受益者	ストリート・チルドレン・センターと就学前教育センターを利用する5-18歳の子どもたち 1,988人
内 容	物資支援として提供された手編みのセーターなどウール衣料を、ストリート・チルドレン・センターと就学前教育センターを利用する子どもたちの一部に配布する。

## 2. 支援事業地概要

### (1) 事業実施国概要

アフガニスタンは、中東・中央アジアに位置する内陸国で、アフガニスタン・イスラム共和国を正式名称とする共和制国家です。2,916万人の人口を有し、パシュトゥーン人、タジク人、ハザラ人、ウズベク人等の多様な民族が暮らしています<sup>1</sup>。40年近くに及ぶ紛争のため、多くの人口が平和と安定を求めて欧洲諸国やアメリカ等の国外に難民として流出し、今なお約250万人が難民として国外に逃れたままとなっています(2018年)<sup>2</sup>。政府軍と反政府軍との戦闘の長期化は、安定と和平への希望に影を落としており、アフガニスタン政府や国際社会が、持続可能な開発、援助からの自立、および経済発展を成し遂げるために今後も引き続き協力していくことが求められています。

### (2) 事業実施地域概要

ヘラート州は首都カブールより西方600kmの距離に位置し、人口197万人<sup>3</sup>が17郡に居住しています。ヘラート州は、イランとトルクメニスタンと国境を接しているため、紛争から避難する人々の主要ルートとなっていました。首都やパキスタン国境に接している地域に比較すると、紛争による直接的な影響が限定されたものの、今なお多くの国内避難民が滞在している地域です。

また、ヘラート州の北東側に隣接するバギス州は、アフガニスタンの中でも特に開発が遅れている山岳地帯で、人口約51万人<sup>4</sup>が居住しています。道路、電気、病院などのインフラの整備も遅れています。2018年は過去15年で最も降雨量が少なかった影響で、干ばつによりバギス州の人口の半分にあたる25万人以上が、深刻な水・食料不足に直面しています。バギス州を含むアフガニスタン西部では33,200人の5歳未満児が栄養不良状態にあり救命治療が必要であると言われています<sup>5</sup>。また、バギス州の大部分を占める山岳地帯では農業や家畜が主な生計手段となっているため、干ばつにより生計手段を失

<sup>1</sup> <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/afghanistan/data.html#section1>

<sup>2</sup> <https://www.unhcr.org/afghanistan.html>

<sup>3</sup> Central Statistics Organization, Islamic Republic of Afghanistan

<sup>4</sup> Central Statistics Organization, Islamic Republic of Afghanistan

<sup>5</sup> Afghanistan Drought Situation Report No. 2 (as of 16 September 2018), OCHA, p.3

って困窮し、多くの人々がヘラート市などの近隣の都市部へ生活のために移動せざるを得ない状況となっています。

ヘラート州とバギス州は、昼と夜の気温差が激しい乾燥帯(ステップ気候)の気候区分に属します。冬には空気が乾燥し、雪が降って気温がマイナス10度を下回ることもあります。



冬期のバギス州の子どもたち

### 3. 支援事業の背景と目的

#### (1) 支援事業の背景

##### ～ヘラートのストリート・チルドレンの子どもたち～

ヘラート州の州都ヘラート市では、他の地域から紛争や干ばつを逃れてきた人々の流入や、近年のパキスタンやイランからの帰還民の増加によって貧しい世帯が増加しています。そのため、ヘラート州はアフガニスタンの中でもストリート・チルドレン（路上で働くまたは生活する子どもたち）が最も急増している地域のひとつで、2018年時点で10,000人以上いると推定されています<sup>6</sup>。そのような子どもたちは、古い布を身にまとって、物乞い、ビニール袋売り、自転車修理、靴磨きなどで生計を立てて、家族を支えなければならない状況にいます。一日中働いているために学校へ行く機会を奪われているうえに、身体的・性的暴力、犯罪への関与、麻薬の犠牲といったあらゆる搾取の危険と隣り合わせの生活を送っています。

寒さが厳しくなる冬の間は、ストリート・チルドレンの子どもたちの生活は一段と難しくなります。どのような子どもたちの家庭は世帯収入が低いため、防寒着や暖房を買うことができません。時にマイナス10°Cを下回る寒空の下、多くの子どもたちが冬には適さない洋服で、凍るほど冷えた指先を動かして、ゴミ捨て場のなかからその日の食事を確保しようとしています。

##### ～ワールド・ビジョンのストリート・チルドレン・センター～

ワールド・ビジョンは2011年にストリート・チルドレン・センターを設立し、路上で暮らす子どもたちに対して最低限の医療サービスの提供や、カウンセリング、学習支援やレクリエーション活動など医療・栄養・教育・心理的サポートの面で支援を提供しています。また、保護者に対しても、子どもが教育を受けることの重要性について啓発を行い、保護者が雇用機会を得て世帯の貧困状態を改善できるよう就労支援も行っています。同センターは子どもたちや保護者が立ち寄りやすいようにヘラート市の中心に位置し、現在は約4,000人の子どもたちが通っています。

##### ～アフガニスタン国内でも特に識字率が低く、干ばつの影響を受けた地域、バギスの子どもたち～

アフガニスタン国内でも特に開発が遅れているバギス州では、コミュニティのリーダーや宗教指導者の影響力が大きく、伝統を重んじる保守的な文化が色濃く残っており、女性は父親や夫の許可なく家から出ることが困難な状況にあります。子どもたちへの教育も重要視されておらず、アフガニスタン国内でも特に識字率が低い地域です。このような地域の価値観と干ばつの厳しさが相まって、ワールド・ビジョンがバギス州で行った調査では、干ばつによる家計の厳しさと食糧難を乗り切るための手段として、娘を結婚させることもある、と回答した者が52%にのぼったほどです。山岳地帯であるため、冬の気温はヘラート州よりもさらに低くなりますが、貧困世帯では干ばつの影響で生活が苦しいため、冬を乗り切るための防寒着を購入することも難しい状況です

##### ～ワールド・ビジョンの就学前教育センター～

ワールド・ビジョンは2018年からヘラートにおいて貧困世帯の子どもたちを対象とした就学前教育センターを開設・運営し、基本的な読み書きを教えたり、安全な遊び場の提供を行っています。アフガニスタンでは、就学前教育への就学率が国全体で1.6%（2013年）と、普及が遅れています。就学前教育は、

<sup>6</sup> アフガニスタンの社会労働省の報告による

就学後の読み書きや計算能力の習得に大きな影響をおよぼすため、アフガニスタン教育省も重要視していますが、実際の就学前教育センターの設置は遅れています。一部私立の施設が設置されていますが、経済的に困難な家庭の子どもたちは学費を支払うことができないため、アクセスできないのが現状です。このため、特に干ばつの影響を受けた世帯を含む経済的に困難な家庭の5-6歳児が就学に向けて準備を整えることができるよう、支援を行っています。

## (2) 支援事業の目的

本事業は、ストリート・チルドレン・センターと就学前教育センターを利用する子どもたちが体調を崩すことなく冬を越せるように、適切な防寒着(セーター、マフラー、帽子など)を提供することを目的としています。同時に家族や社会から十分な保護に恵まれず、厳しい環境で生きる子どもたちが、手編みのセーターを贈られることによって「あなたたちを忘れていません。あなたたちは大切な存在です。」というメッセージを受け取り、自信や尊厳を持つことができるることを目指しています。

#### 4. 支援事業内容

##### (1) 活動内容

ワールド・ビジョンを通して、ヘラート州ヘラート市のストリート・チルドレン・センターと就学前教育センター、バギス州カラエナウ市の就学前教育センターを利用する子どもたちとそのきょうだいを対象に「世界の子どもたちへ編み物作品を贈ろうプロジェクト」ご参加者の皆さまより寄贈いただきました手編みのセーターなどを届けました。

配布対象者の選定にあたっては、各利用者の家庭の状況を熟知するストリート・チルドレン・センターおよび就学前教育センターの指導員やワールド・ビジョン・アフガニスタンのスタッフを中心に協議され、世帯の貧困度合いやせい弱の度合いによって決定されました。

2018年は2016年、2017年に続き3回目のアフガニスタンへ向けた発送となりました。9月29日の埼玉県・新座市内での箱詰め作業の後、10月1日に物品発送を行い、10月5日に成田空港から空路にてアフガニスタンのカブール国際空港へ輸送、10月9日にカブール空港到着後に税関手続きを経て10月29日にワールド・ビジョン・アフガニスタンのスタッフが物品を受領しました。カブールからヘラート、さらにバギスへの配送においては、ワールド・ビジョンのスタッフが治安状況を慎重に検討した上で、陸路での輸送を決定しました。11月5日にカブールからトラックで発送し、11月6日にヘラートへ到着、さらに11月18日にバギスへも一部を輸送し、厳冬期が始まる前の11月下旬にヘラート市のストリート・チルドレン・センターとバギスの就学前教育センターまで、紛失や盗難被害もなく良好な状態で搬送することができました。

ご寄贈品はサイズごとにセーター、マフラー、帽子などのセットで袋詰めされました。贈呈は11月25日から29日の5日間に分けてヘラートとバギスの2カ所で行い、初日の11月25日にはヘラートのストリート・チルドレン・センターで贈呈式を執り行いました。式典では、ストリート・チルドレン・センターのスタッフやワールド・ビジョン・アフガニスタンのスタッフが子どもたちにセーターやマフラーを直接手渡しました。

##### (2) 配布物品内訳

物品	数量
セーター	1,363 着
マフラー、スカーフ	1,705 個
帽子	1,988 個
ベスト	11 着
手袋	5 組
靴下	7 足
合計	5,079 点

(3) 受益者内訳(性年齢別)

年齢	ヘラート			バギス			2カ所合計
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	
5-9 歳	382 名	252 名	634 名	113 名	97 名	210 名	844 名
10-13 歳	364 名	153 名	517 名				517 名
14-18 歳	398 名	229 名	627 名				627 名
合計	1,144 名	634 名	1,778 名	113 名	97 名	210 名	1,988 名

(4) 配布物品内訳(受益者年齢別)

年齢	セーター	マフラー	帽子	ベスト	靴下	スカーフ	手袋	合計
5-9 歳	720 点	720 点	720 点	0 点	0 点	0 点	0 点	2,160 点
10-13 歳	380 点	380 点	380 点	0 点	0 点	2 点	5 点	1,147 点
14-18 歳	263 点	603 点	888 点	11 点	7 点	0 点	0 点	1,772 点
合計	1,363 点	1,703 点	1,988 点	11 点	7 点	2 点	5 点	5,079 点

## 5. 支援事業による効果

- 受益者の子どもたちの多くは屋外で働いています。配布された防寒着によって、寒さによる病気から守られます。
- 受益者の子どもたちは新しく上質な衣料を着て、引け目を感じることなく友達の集まる場に行くことができます。また励まされ、通学や勉学を続けることができます。
- 普段から十分な保護を受けることができていない受益者の子どもたちが、手編みの贈り物を受取ることで「自分は大切な存在である」というメッセージを感じることができます。
- 質の良い手編みの衣料のため耐久性が高く、長きにわたり使うことができ、貧しい家庭の家計を支えています。

## 6. 現地からのメッセージ

～子どもたちの声～

ヌールラ君(10歳)



フワフワとあたたかい編み物作品を手にしたヌールラ君は興奮を隠せません。「僕にくれるの？きれいだねー！着てみてもいいのかな？」

ヌールラ君はワールド・ビジョンがアフガニスタンで運営するストリート・チルドレン・センターで支援を受ける子どもの一人です。半年前からほぼ毎日センターに通い、心理的ケアのほか、教育や保健面での支援を受けてきました。

ふだんは靴磨きの仕事をしているので、仕事道具を入れた鞄をいつも持ち歩いています。中には、靴を磨くブラシ、茶色と黒の靴クリーム、そして磨き用の古布が入っています。日が昇ってから暮れるまで、厳しい冬でも、乾燥した夏でも、仕事を求めて歩きまわります。一日の収入は40円にも届きません。仕事をしない金曜日だけは、友達と遊ぶことができます。お父さんの家大工を手伝うこともあります。ヌールラ君のお父さんのように、この地域の一家の大黒柱は行商やイランに出稼ぎに出ています。お母さんは近所の家で家政婦として働いています。

2015年の世界銀行の調査によると、アフガニスタンの家庭の4割近くが貧困ラインに満たない生活をしており、最低限必要な衣食住、教育、医療保健サービスを受けることができずにいます。ヘラートの冬は気温がマイナス10℃にも下がる厳しい時期ですが、毛布や子どもたちに防寒具を買うことができる家庭は多くありません。ヌールラ君の家庭のように収入が少ない家庭にとって、毎日の食料を買うのがやっとなのです。

ヌールラ君にはきょうだいが4人います。今まで数少ない防寒具を兄弟たちと譲りあっていましたが、もうその必要はありません。真新しくてあたたかいセーター、マフラー、そして帽子を身に着けて、ポーズをとってくれました。「あったかいよ！色も気に入ったよ、とても素敵だね。」

ジャミラちゃん(9歳)



ジャミラちゃんは学校に行ったことが一度もありません。お父さんはアヘン依存症にかかっていて、仕事ができないのです。「学校に行きたいけど、仕事しなくちゃいけないの。朝早く街に出て、ペットボトルとか、金属の破片とか、紙を拾い集めて売るの。毎日だいたい200円にはなるわ。もらったお金はお父さんに渡すのよ。渡さないと怒られるの」

ジャミラちゃんは冬が苦手です。「家の中はいつも寒いから。きょうだいと1枚の毛布にくるまって寝るんだけど、雪が降ると凍えそうで眠れないわ」。

真新しい毛糸でできたセーター、マフラーそして帽子を受けとて、ジャミラちゃんは満面の笑みを浮かべてくれました。「とってもあったかい！素敵だわ。お母さんも編み物ができたらしいな。そうしたら寒い思いをしなくてもいいもの。こんな素敵なおもをいただいたのは初めてよ」。

## アブドゥル・サブル君(13歳)



©World Vision Japan

アブドゥル・サブル君の一日は日の出とともに始まります。人力車を引いて街に出て、野菜、果物、パンなどを拾ってお父さんに渡します。

10時になると家に戻り、お茶とパンを食べてから学校に行きます。

アブドゥル・サブル君のお父さんは学校の用務員です。お父さんは年をとっていて体が思うように動かないで、放課後にお父さんを手伝って、教室や校庭を掃除します。「クラスメイトがみているところでお父さんと仕事をするのは恥ずかしかったけれど、今は慣れたよ」

アブドゥル・サブル君と8人きょうだいの全員が家計を手伝っています。お母さんと5人の姉妹たちは羊毛を洗浄する仕事をしています。「家族みんなが働かないと、食べるものとか学校用品が買えないんだよ」

アブドゥル・サブル君がストリート・チルドレン・センターに通い始めてから1年が経ちました。贈られた真新しいセーター、マフラーと帽子をさっそく着てみて、柔らかいセーターを指で撫でながら、こう話してくれました。「新品の洋服を着たことは初めてだよ。お母さんはいつもお古の洋服を買うか、お金のある近所や親せきからもらってきててくれるから。この新しい服は、学校の特別な集まりがあった時とか、誰かの家にお呼ばれしたときのためにとっておきたいな」。

### ～ワールド・ビジョン・アフガニスタンのスタッフより～

ストリート・チルドレン・センターで子どもたちのカウンセラーとして働くポヤさんはこのように話してくれました。「寒い日が続くアフガニスタンのヘラートから、日本の皆さんに感謝を申し上げます。

皆さんは子どものときに、誕生日にカードやプレゼントをもらうことはあったでしょう。でもここストリート・チルドレン・センターに通う子どもたちにとって、それは本当に特別な経験なのです。ここアフガニスタンの子どもたちにとって、遠い国にいる人々からこのような贈りものを届けられるということは、彼らがかけがえのない特別な存在であることを知る機会なのです。

「幸せを願ってくれる人がいる。そのことを知るだけで、彼らの毎日が少しでも楽になるのです」。

## 6. 会計報告

収支計算書	
内容	実績(円)
ご支援金額(物品寄付)	¥1,991,300
ご支援金額(募金)	¥2,004,535
MS&ADゆにぞんスマイルクラブ様より	¥1,389,303
日本手芸普及協会様より	¥247,788
一般募金者より	¥367,444
<b>収入額合計</b>	<b>¥3,995,835</b>
寄付物品価格 (セーター、マフラーなど)	¥1,991,300
輸送費	¥1,431,536
現地配布にかかる費用	¥57,154
<b>現地事業費合計</b>	<b>¥3,479,990</b>
啓発教育費及び地域開発援助事業管理費等	¥515,845
<b>支出額合計</b>	<b>¥3,995,835</b>
<b>差額</b>	<b>¥0</b>

### 【連絡先】

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー3F

TEL: 03-5334-5350 FAX: 03-5334-5359

担当:平田(マーケティング第1部法人・特別ドナー課)

## 【添付資料】

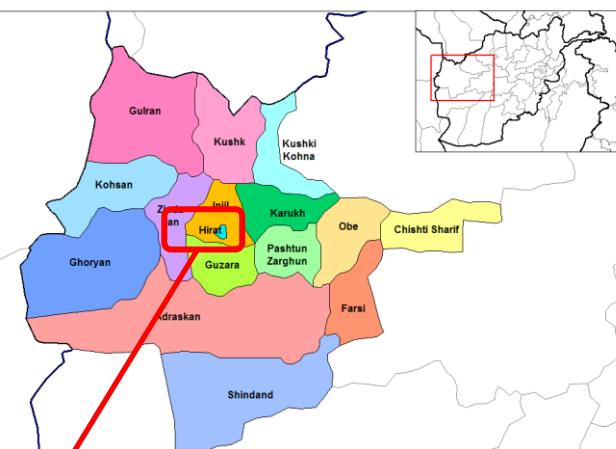
### (1) 支援地地図

アフガニスタン



ヘルート州拡大図

バギス州拡大図



ヘルート市



カラエナウ市

## (2) 支援事業写真

### 【ヘルート】



① 贈呈式にて:日本全国のご支援者の方からの贈り物が届いたことを聞き、嬉しそうな様子の子どもたち



② 贈呈式にてスタッフが男の子のセーターの試着を手伝っているようす



③ 試着を終えて嬉しそうにほほ笑む男の子とスタッフ



④ 試着を終えた子どもたちと記念撮影



⑤ 贈呈式のあと、嬉しそうな表情を見せる子どもたち



⑥ 受け取った帽子とマフラーを身につける男の子

【バギス】



① バギス州のジャレ・カショク就学前教育センターにて、スタッフにマフラーを巻いてもらう女の子



② セーターや帽子、マフラーを受け取り大喜びする子どもたち



③ ふわふわのマフラーの感触を喜ぶ男の子



④ バギス州のショマル・ダリヤ就学前教育センターで、暖かい衣料を贈られてうれしそうな子どもたち  
以上